

今月のテーマ

ラスパニ(ノリウツギ)

村木美幸(アイヌ民族文化財団副理事長)

アイヌ文化のことをもっとも話したい!
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で
執筆するソノコ(=お便り)形式のエッセイです。

川

でサケを捕るマレク(鈎銚^{かまじ})の鈎を固定する台
木や海獣漁に使うキテ(銚^{もり})と長い柄を繋ぐ

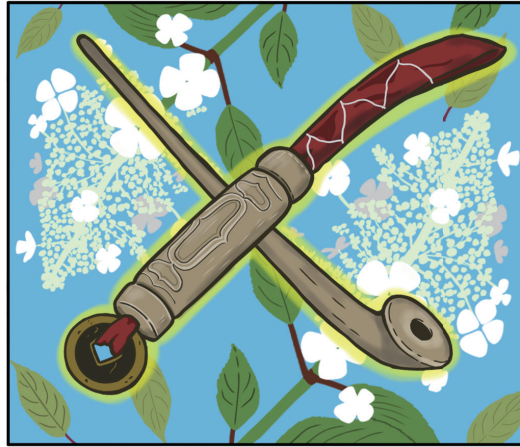
中柄部分をアイヌ語でラスパバといい、そのラスパバの材に
ノリウツギが使われることからラスパニ(ラスパバをつく
る木)の名でノリウツギは呼ばれます。

ノリウツギは、内皮から糊^{のり}を採取し、木の髄をぬくと
中空となる空木^{くうぼく}が語源とされ、

別名をノリノキヤトロロウツ
ギ、北海道ではサヒタと呼ばれ
ます。北海道から九州までの日
当たりが良い山野に自生する
樹高二〜五メートルの落葉低木で、七
〜八月、枝先に伸びた花茎に小
さな白い花が集まって円錐形の
ピラミッド状に咲き、萼^{がく}が花び
ら状に変化した装飾花をつける
のも特徴です。

ノリウツギの木質部はとても
堅くて重い上に燃えにくく、髄

が柔らかく加工しやすいので、マレクやキテの他にもい
ろいろな道具に使われてきました。矢が真っ直ぐに飛
ぶように銚^{もり}を支え、錘^{おもり}の役割をするマカニツ(矢骨、中
柄)の他、アペパスイ(火箸)やアペキライ(灰かき)にも
使われます。また、中空になることから喫煙具のキセ
ルもつくられ、長いものは四十センチを超えるものもあり



イラスト/山丸ケニ

ます。一本の枝からつくられ、枝先を吸い口に、刻みタバ
コを詰める火皿の部分には枝元の曲がった形状を上手
に利用しました。また、木の髄を抜いて筒状の針入れ、
チシポも作ります。針の入手が難しく貴重とされた時
代には、針を紛失したり折ったりしないようにモウル
(肌着)の胸元の紐にチシポを結び肌身離さず携帯し
たといえます。チシポはノリウ

ツギの筒と針を刺すための布か
らなり、その布には、針を引き
出しやすいように古銭などが
付けられています。チシポの表
面には美しい彫文様が施され、
実用性と装飾性を備えたお
しゃれな道具の一つです。

昨年、国宝や重要文化財の修
復、保存に必要な手すき和紙の
原料となるノリウツギの採取が
標津町^{マサキ}で始まった、というニュー
ス番組を見ました。全国的にノ

リウツギが枯渇していることから文化庁の補助を受け
て同町が実施、今後は栽培も視野に…というものでし
た。シカの食害などによる資源量の低下や採取する後
継者不足も調達を難しくしているとのこと。自然素材
の確保や伝統技術を継承する今日的課題はアイヌ文
化においても同じです。



今回のテーマは「エモ(ジャガイモ)」
本田優子(札幌大学教授)が担当します。



ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

JR白老駅から徒歩約10分



ウポポイPRキャラクター
「トクワッポン」



イランカラプテ
「ごんには」からはじめる。

■ 本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■ 村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団副理事長。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■ 山丸ケニ(やままるけに):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団職員。ウポポイでアイヌ語体験プログラムを担当する。